

## デジタルアーカイブの研修カリキュラムの再検討（1）

日本アーカイブ協会

デジタルアーカイブは1990年代から始まり、資料の収集、デジタル記録、選定、保管、流通、活用、還元の一連の試行が2019年までにされた。その結果、デジタルアーカイブの全体の構成から、各領域の処理体系の見直し、すなわち、デジタルアーカイブの研修カリキュラムの再検討が必要となってきた。

たとえば、還元情報や双方向の流通の整備によりデジタルアーカイブの改善やメタデータの構成など、多様な領域で全体構成の視点から検討が必要である。

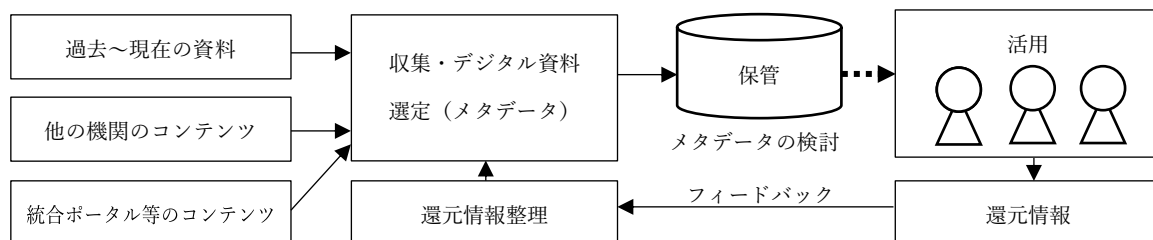
### 還元情報（フィードバック）

フィードバックの取り扱いを見ても、還元情報を整理し、必要によってコンテンツの改善、付加価値情報の付与、新たなコンテンツの追加、ときには、利用者への活用情報の提供もされだした。フィードバック処理や還元情報保管のためにメタデータの構成の検討も必要である。

### 収集・デジタル記録・保管……新しいコンテンツの収集と提供されたコンテンツの活用

統合ポータル、ハブ、各機関等のデジタルアーカイブの整備・流通が進みだし、これまでのように、全ての資料を収集・デジタル記録から始めた初期のデジタルアーカイブの開発の時期と違い、すでに流通しているコンテンツを選定し、それに不足資料の追加収集がなされだした。

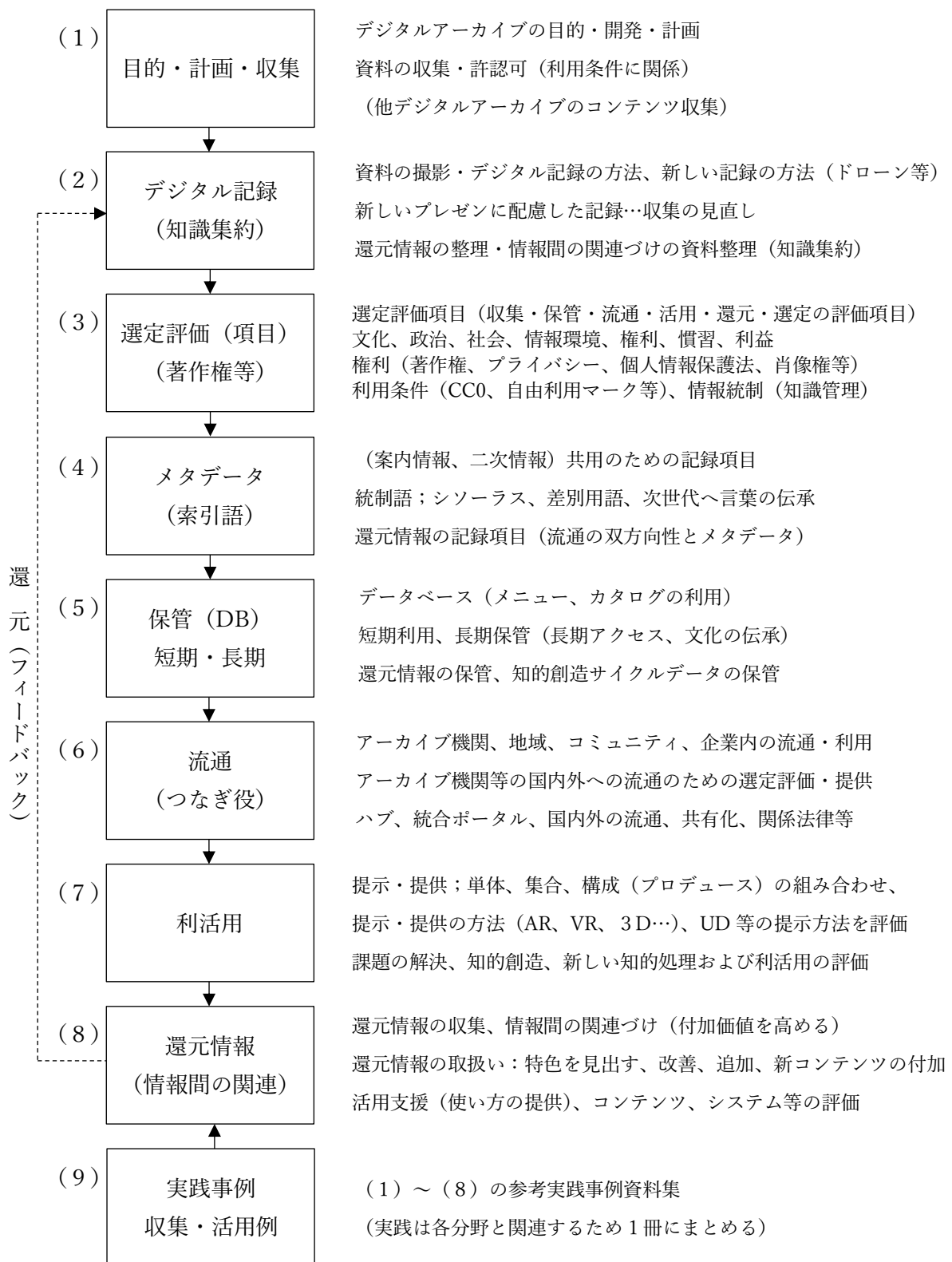
このため、新しい視点での資料収集が始まりだし、さらに、フィードバックによる還元情報を利用した総合的な資料収集が必要になってきた。



このような見直しが、全領域で進められだし、研修カリキュラムの変更が必要になってきた。

今後、資料収集から活用、還元まで各機関で全体的な視点から内容の検討を行いたい。「ぜひ、関係者よりご意見くださるようお願いいたします。」

## デジタル・アーキビスト研修テキストの構成の再検討 ～デジタルアーカイブ機関での収集の例～



還元 (フィードバック)

(11) ～デジタルアーカイブが使われる各分野の解説テキスト

例. ○地域文化、教育、企業、観光…とデジタルアーカイブ 等のテキスト  
今後、各内容構成を再検討し、各内容についてどのような活動ができるようになればよいかロードマップ方式を再検討すべきである。